

## 第 50 回 格納容器漏えい試験検討会 議事録 (案)

1. 開催日時 2026 年 4 月 17 日 (金) 13 時 00 分～15 時 15 分

2. 開催場所 (Web 会議のみ)

3. 出席者 (順不同, 敬称省略)

出席委員: 丹羽主査 (関西電力), 馬場副主査(東京電力 HD), 赤間 (JAEA),  
生田 (中国電力), 稲田 (北陸電力), 大谷(関西電力), 河野(四国電力),  
七條(三菱重工業), 鈴木 (電源開発), 大東 (JANSI),  
高野 (発電設備技術検査協会), 竹花 (東北電力), 塚田(中部電力),  
深井(東芝), 増田(九州電力), 村田(北海道電力), 矢持 (日立 GE ベルノバ) (計17名)

代理出席者: 小幡 (日本原子力発電, 大内委員代理) (計 1名)

欠席委員: 田邊 (東芝), (計 1名)

オブザーバ: (なし) (計 0名)

事務局: 景浦 (日本電気協会) (計 1名)

4. 配付資料:

資料 50-1 PCV 漏えい試験検討会 委員名簿  
資料 50-2 第 49 回 PCV 漏えい試験検討会 議事録 (案)  
資料 50-3 JEAC4203-2026 発刊準備作業スケジュールについて  
資料 50-4 第 81 回 構造分科会 議事メモ抜粋と対応方針  
資料 50-5 JEAC4203-202X 新旧比較表 (#96 原子力規格委員会コメント反映案) \_R2  
資料 50-6 PWR 器差補正 R3  
資料 50-7 第 80 回 構造分科会 議事録抜粋と対応方針  
資料 50-8 【初稿版】 01\_JEAC 4203-202X\_本文・解説\_r15  
資料 50-9 JEAC4203-2026 校正コメントリスト\_r2  
資料 50-10 JEAC4203-2026 本文コメント箇所修正イメージ  
資料 50-11 JEAC4203-2026 解説目次追加案  
資料 50-12 JEAC4203-2026 解説コメント箇所修正イメージ

5. 議事

事務局より, 本会にて, 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後, 議事が進められた。

(1) 代理出席者の承認, オブザーバ出席者等の確認, 会議定足数, 配付資料の確認について

確認時点で, 委員総数 19 名に対して, 代理出席者を含めた出席者は 18 名であり, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 15 項に基づき, 会議開催条件の「委員総数の 2/3 以上の出席 (12 名以上)」を満たしていることを確認した。また, 事務局より配付資料の確認を実施した。

(2) 前回議事録の確認 (審議)

事務局から, 資料 No.50-2 に基づき, 前回議事録案を紹介した。今回は, 事前に議事録案を委員各位に確認して頂く時間が取れなかった事から, 正式議事録とする事についての承認については別途, メールによる審議を行い委員の承認を頂く事になった。後日事務局からメールを配信する旨の説明があった。

(3) 審議

## JEAC4203-20XX 改定について

丹羽主査及び各担当委員より、資料 No.50-3～No.50-7 に基づいて、JEAC4203-20XX 改定案のコメント対応についての説明があった。

資料の説明状況及び、主なご意見・コメントは下記のとおり。

### ○資料 No.50-3 関連

特にご意見等はなかった。

### ○資料 No.50-4 関連

特にご意見等はなかった。

### ○資料 No.50-5 関連

特にご意見等はなかった。

### ○資料 No.50-6 関連

特にご意見等はなかった。

### ○資料 No.50-7 関連（PWR 器差補正について）

主なご意見等は以下の通り。

- ・10年の間に（連続ではなくても）2回ぐらい「不合格」が続くと、最初に10年何もなくてCVが健全であることが確認されたという理論と、そこから先の試験で「不合格」となった場合は、それはその時の状態によって起きたという考えだと思う。ただし、さらにそこから10年経たないうちにもう1回BC種試験が「不合格」となると、最初に健全である事を確認した担保ができなくなるのではないかと？
- 10年の間に、連続ではなくとも、2回BC種試験で不合格が出たら、そのCVのパフォーマンスは悪いと判断できるのかという事だと思う。当時の考えを前提にすると、2回連続の不合格でなければ、（不合格となった箇所に）恐らく何らかの不具合、（当該貫通部の）シール部の状態が悪かったとか、当該隔離弁に微小なリークがあったとか、隔離弁のシート面にゴミが噛んでいたとか、何か偶発的なことが単発で起きたという整理ができると考える。  
何故かという、試験間隔を10年に1回にしたCVは、それよりも前に10年間合格を継続したCVなので、保全プログラムも問題なく働いていて、しっかり保全されてきたCVという証がある。そういうCVであれば、それは別に10年ではなくて、3定検に1回のA種試験に移行したCVでもよいのだが、（CV全体の）パフォーマンスがよいので、BC種試験により健全性が確認できる。そのため単発で起きた事象は、偶発的な事象と言ってもいいという整理が出来ると思っている。（事後注釈：10年間の合格を継続しなくとも、B,C種試験への移行要件を満たしたCVであればB,C種試験でCV全体のパフォーマンス監視ができるが、B,C種試験で2回の連続する定検で不合格となった場合には、単発の貫通部・隔離弁の劣化ではなくCV全体のパフォーマンスが劣化している可能性があるため、B,C種試験の結果がCV全体のパフォーマンスを代表していない懸念が生じているという意図）
- 実際には、規制検査の中で10年に1回の間に、連続ではなくても2回もBC種試験を失敗していると、恐らく是正処置のプログラムについてコメントが付くと思う。
- その時には、その（連続ではない2回のB,C種試験失敗の）原因が、CV全体のパフォーマンスに影響を与えたものではなく、その貫通部に関する個別の事象で、かつ一過性の問題と考えられるから、CV全体のパフォーマンスには影響がないということを、事業者として説

明できないといけない。もし説明できない場合には、事業者は自主的に、A種の頻度を変更する（従前の頻度に戻す）ことにはなると思う。その場合は、是正処置側での対応となる。CAPシステムが適切に働いているか、保全の有効性評価ができていないか、そういった話に進むと思う。そう考えても、単発の事象であり原因究明がきちんとできている限りは、（連続ではない2回のB,C種試験の失敗は）別に問題ないのではないかと考える。

- ・資料の中で、「不合格」になった後の再試験で「合格」になった場合でも、ダメになっているが、基本的に試験結果が「不合格」のままプラントを立ち上げることは無く、何らかの是正処置を施して「合格」になった上で進めると思うが、それはA種試験の時に、「不合格」になった時と同じ考え方なのかと言われたいか心配である。1回でも試験結果が「不合格」だったのではないかと技術評価時に言われた時には、もう1回（最初の運用に戻って）、「3年に1回」の部分で「1回でもダメにする」ということも考えていく必要があるのではないかと。

→1つ目のご質問については、BC種試験で2回の連続する定検で「不合格」だったとしても、結局「不合格」だった時点で、適切に是正処置をして不適合処置して元の状態に戻すのだから、それがA種試験（を挟んだ2回のB,C種試験が不合格）の時と何が違うのか？という主旨だと思う。BC種試験で、2回連続「不合格」となった場合、その間にA種試験を挟んでいけば、A種試験でCV全体のパフォーマンスが監視できているから（A種試験の前の1回のB,C種試験の不合格はリセットでき）、A種試験後のB,C種試験が1回不合格であっても、B,C種試験が継続できる。

それに対してB,C種試験が2回の連続する定検で、「不合格」になったということは、貫通部だけを見ているのに2回も連続で、合格できない状態にあるとすると、「CVのパフォーマンスとしては、鋼板部も含めて全体が健全だからB,C種試験へ移行できた」というそもそも「CV全体が健全」という前提が崩れてしまうのではないかと考える。だから、（その状態では）もはやB,C種だけでは、CV全体のパフォーマンスを見ることができないとなる。B,C種試験のみという方法が不適格なので、A種試験に戻す。A種試験に戻してから、もう1度CV全体を見るということをしなければならないので、B,C種試験で不合格になっても、その都度不適合処置をして「合格」になってから、復帰するのではないかとのご指摘はそうなのだが、（B,C種試験がCV全体のパフォーマンス指標として適切かどうかという観点があるため）そこはちょっと違いがある。

→あとは相手側の捉え方次第だと思う。BC種試験の特質性を考えると、どこが漏れているかはすぐに判るので、1回目だろうと2回目だろうと漏れている箇所を直せばいいという、そんな話にならないかなというのがある。

→そこは気になるところで、2回（の不連続のB,C種試験の不合格）があってもCV全体のパフォーマンスが落ちてるとは限らず、漏れてるところが明らかにわかり、例えばエアロックから漏れてたらエアロック直せば多分「合格」になるはずである（のでCV全体のパフォーマンス劣化ではない）。

→だからそのロジックで相手が納得するのか心配なところである。

→貫通部だけを確認すれば問題ないという事で、CVの健全性に対してBC種試験による確認はすごく有効である。どの部分の貫通部から漏れてるとか、エアロックから漏れてるとか、はっきりと漏れ箇所が特定できるので、貫通部以外を見なくていいぐらいパフォーマンスが安定しているCVだったら、BC種試験による確認が1番有効だと思う。でもBC種試

験を2回連続で不合格が出るということは、多分何かしら、CV全体の保全に問題があり、それがBC種試験での2回連続の不合格に表れていると考えられる。1回であればたまたまかもしれないが、2回連続ということはCV全体のパフォーマンスが怪しくなっているのではないかと捉えるという考え方である。それは事業者の保全管理に問題があるのかもしれない。だから2回連続というのは、そのBC種で測れない部分で劣化が起きている可能性がある。そこ(B,C種試験の適格性)を検知するのが、「BC種試験2回連続不合格」と考えている。つまり、B,C種試験を使っていいという前提が崩れたという捉え方になると思っている。それから、冒頭でご質問があった、「2回連続」という基準が甘いのではないかと言われた時、電気協会としては(規格を)直すつもりはないのだが、ひょっとしたら技術評価の結果、「1回でも許さない」という事になる可能性は否定できない。

○資料 No.50-9～No.50-12 関連 (JEAC4203-202X 発刊準備作業について)

- ・事務局より、JEAC4203 発刊準備作業 (原稿校正作業) の流れについて説明があった。
- ・さらに事務局による初校原稿の確認結果についての説明があった。主なコメントとしては、解説目次の追加、印刷時にやや不鮮明な図表の修正、箇条書き箇所の附番の見直し等。
- ・今後の校正スケジュールについての説明があり、各校正作業担当者がそれぞれの担当箇所について4月30日を目途に、確認作業を行い、最終的にはコメントリストに取り纏める事になった。また事務局の事前確認コメント箇所についての反映要否についての検討も行う事になった。
- ・初校校正作業の確認結果については、最終的に検討会主査と事務局にて反映の要否を判断の上、必要な修正を加える事になった (適宜検討会にも状況報告する)。
- ・また、本日の検討会で紹介された、構造分科会におけるご意見等の反映箇所については、第2校原稿に盛り込み、校正作業を行う事が確認された。
- ・校正作業担当者から、今後の作業に関する質問があり、事務局から対応方法についての回答があった。

(4) その他

特になし。

以上